

医薬保健系特別講義 兼 短期集中講座 SS セミナーB 第 8 回目

(医薬研究職分野)

12月23日(金)に厚木高校(会議室)で実施された第8回目の様子です。

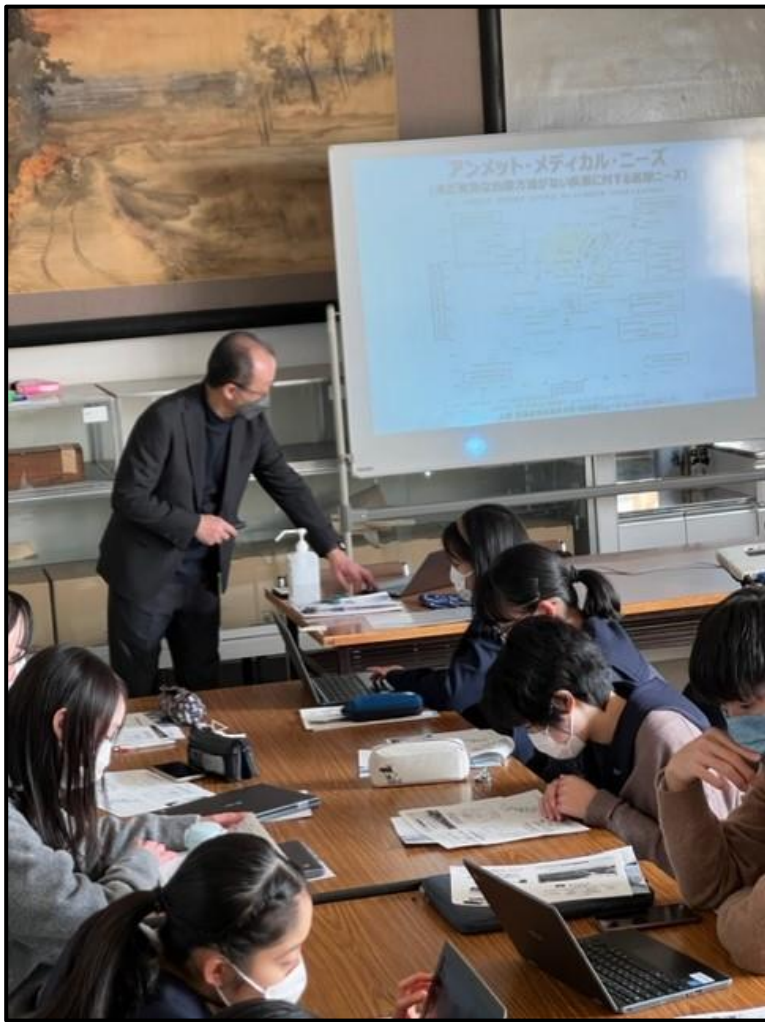
受講生徒；高校 1, 2 年生 + 1, 2, 3 年生有志メンバー

講師；金沢大学 医薬保健学域医薬科学類 松永先生

『研究者養成課程』と聞いて、どう感じますか？ ワクワクしますよね。しかも、学部ではなく、学類。そして4年制。薬学部は6年制で薬剤師になるよね。医学部も6年制で医師になるよね。あれ、薬って誰が開発しているのだろう。もちろん医学部・薬学部で研究開発していますが、国家資格と薬の開発は別です。薬はいろんな学部で研究しています。意外かと思いますが、例えば工学部でも薬の研究をしている分野もあります。今回講義していただいた国立金沢大学では、医学・薬学の分野が融合した内容を4年間で学び、修士課程・博士課程と希望に応じて進学していくカリキュラムを展開しています。

今回参加した生徒は、SS セミナーB のメンバー以外にも、医薬開発に興味があるメンバーが参加して、合計25名の生徒が薬の開発やがんの最前線の講義を受講しました。





(左上)
がんのメカニズムや紫外線・喫煙等の要因について講義していただいている様子

(右上)
スライド資料と大学のカリキュラムの資料

【受講生徒のアンケート（一部抜粋）】

- ・これまで、医学と薬学はほとんど同じものだと思って生きてきたけど、今回の講習を通して、全くではないが、かなり違うものなんだ、と学んだ。未だ確実な治療法がない癌に対して、今回の講義の内容のようなアプローチをしているのはとても画期的だと思うとともに、それが数年前の出来事と知って、知らないところで科学が発展しているということにとっても魅力を感じた。
- ・がんと聞くとまだ自分に身近な病気というイメージがないけれど、がん細胞の出来方を聞いたり、がんの種類によって 10 年後の生存率が大きく変わることを知ってがんという病気の怖さに気が付きました。薬学系の観点からお話を聞くのは初めてだったので面白かったです。
- ・がんについて多少調べたりしていたが今回はじめて知ることがとても多くとてもためになった。肺がんにもいくつかの種類があり意外だった。また性別によっても癌によっては発症確率が変わるので、性転換手術を受けた人の場合はどちらの性別の確率になるのか疑問に思った。
- ・新薬を作るのに最初は 545,967 化合物の候補から 24 化合物にまで絞り込むことや研究開発費が 2017 年で 1,414 億円かかると知り新薬開発の難しさを知った。また、紫外線で DNA は傷つくが自力で修復できることに驚いた。ガンの研究が進んでガンへの予防薬や治療薬ができ、将来的にはがんは治せる病になりそうだと感じた。
- ・今回の講義を通して、わたしたちに身近な病気であるがんのでき方や進行の仕方など、今まで知らなかった詳しいことを知ることができて良かったと思います。医療について専門の方から直接お話を聞くことはなかなかできないので、この先の自分の進路だけでなく、自分の身の周りの人の健康について考える機会も作ることができ、貴重だったと感じています。

- ・最新のがん研究についてとても詳しく知れて、いい経験になりました。少し自分には難しく、理解できないところもありましたが、良い講義を受けられてよかったです。
- ・ガンの予防、治療や、金沢大学について学びました。薬学系の学部は興味がある学部のひとつなので、そのような学部でどのようなことを学ぶのかを知れてよかったです。また、肺がんは喫煙が大きく関係していると思っていましたが、中には喫煙に関係のない肺がんもあるということが一番印象に残っています。
- ・全体的に内容が難しく、理解することが難しかった。そして、大学で行われている最先端の研究がどれほど進んでいるのかが分かり、勉強は大変だということを実感した。

これで、SS セミナーB の年間プログラムが全て終了しました。
みんなよく頑張りました。

